

「第36回室蘭市都市計画審議会」議事録

1. 開催日時 平成29年11月29日(水)14:00～15:00
2. 開催場所 室蘭市役所2階 大会議室
3. 出席者 委員:市村 恒士、大橋 祐介、清水ヒデ、堤 良子、
真境名 達哉、三村 紀子、森川 卓也、山中 正尚
市側:(都市建設部長)佐藤 肇(都市政策推進課課長)佐野 正樹
(同主幹)佐藤 一徳(同主幹)佐々木 裕司
(都市政策推進課都市政策推進係長)村井 幹男
(同主任)北村 祐貴(同主任)及川 祐一
4. 報告案件 ①室蘭市立地適正化計画の策定状況について
②まちの現状分析について
③基本方針(案)について
④「都市機能誘導区域」の検討状況について
5. 傍聴者 報道関係者1名

■①室蘭市立地適正化計画の策定状況について

- ・資料1及び別紙にて事務局より概要の説明

■②まちの現状分析について

- ・資料2にて事務局より概要の説明

■③基本方針(案)について

- ・資料3にて事務局より概要の説明

■④「都市機能誘導区域」の検討状況について

- ・資料4にて事務局より概要の説明

<質疑応答>

●山中委員

コンパクトシティの考え方については、賛成だ。ただ、現実的室蘭市の住宅事情を考えた場合、平らな部分は建て替えが進んだり、若い方が住んでいるが、傾斜地にも多く戸建住宅があり、それらが高齢者の住まいや空き家になっている。

10年、20年かけて集約していく事は問題ないだろうが、それに至るまでに、山・坂に住んで

いる高齢者についてどのように整理していくのか。住んでいる方々は 70 歳台を超えている方が多いので、居住誘導区域には移れないだろう。移ったとしても、今の家をどうするのか。新しい家はどうすれば良いのか等、財政的に難しいと思う。これらについて、どう整理していくのか考えを聞かせて欲しい。

●事務局

居住誘導の考え方だが、今すぐ居住誘導区域に来て欲しいとか、区域外だから住んではいけないわけではない。次の世代を考えたときに、誘導区域に住んでもらうように、実効性ある誘導施策を今後考えていきたい。

●山中委員

考え方は理解できるが、山・坂に住んでいる高齢者が、平らな誘導区域に住みたいと思っても、公営住宅の不足や、経済的に高齢者施設に入れないような状況である。財政状況が厳しいことも理解するが、そういった点も、公共で検討するような計画にしていかなければならないのではないか。

●事務局

高齢者施設についての考え方は、公共だけではなく民間の施設についても大事であり、都市機能誘導区域内で、どのように位置づけていくべきかを検討していく。高齢者施設については、誘導区域内に集約した方が良いのか、住んでいる地域に近い方が良いのかを福祉部局とも調整している。

●山中委員

これから先の話だが、福祉の会合等では、小さな施設等は集約していくべきというような国の意見も出ており、福祉の分野も厳しい状況になる。こういった状況の中、福祉施設の配置等も都市計画の中でしっかり考えていかなければならない。

●事務局

福祉の部局でも、今計画を見直している状況なので、連携しながら計画を進めたい。

●真境名委員

気になるのは、資料 2 の公共交通（P9）で、国鉄とかは一日 4,000 人切ると撤退するとかの話もある。バスがあるから大丈夫だと楽観視する人もいるが、バスも民間なので、絶対という事はない。その辺については、政治的な部分も関与してくるので、議員の先生にも伝えてほしいし、都市機能の考え方の中で悩ましい部分。

●森川委員

今商業ビジョンを作成しており、私もメンバーとして参加している。都市機能誘導区域についても、JRが存続していくという考えの中で、計画を進めていると思うが、もし廃止されるような場合、半島より西側どうなっていくのか、せっかく作った計画が、おかしくならないようにやっつけていかなければならないと思う。室蘭 - 東室蘭は、500 円のワンコインで往復できる。高齢ドライバーの事故なども社会問題となっているので、公共交通機関を利用するような啓発もしていかなければならない。

特に中央地区は、官公庁やスポーツ施設も集約しているが、商店街はシャッター街になり、危険な空き家も多い。今後居住誘導区域を設定していくとのことだが、まずは、都市機能誘導区域の2拠点をどういう風に計画して、中央地区の人口や高い高齢化率をどうしていくか、行政の施策も相まって計画を進めていかなければならないだろう。

町内会の連合会等でこの計画の話も何度か出ており、個人的には高台に住んでいる人とかは大反対するかと思っていたが、それほど反対の意見も出ていない状況である。ある程度受け入れられて、話が進むのではと感じている。

●市村会長

中島と中央地区同じ色塗りをしているが、実質は異なる機能を持たせていくのかと考えられる。まちの現状を考えると2拠点がベターで、そこが議論になるのかと考えている。その辺についても、協議会で話を詰めていきたい。

●山中委員

高台に住んでいる高齢の方たちも多く、この方たちは自分達の代で消滅するだろうという気持ちが強いので、こういう話をしても、ある程度こういうものだろうという考えになっている。心配しているのは、自分たちが施設に入ったりしたときに、相続等どう整理していくかが問題になってくる。知り合いの不動産に聞いたが、高台に住んでいる方から、この家を安くても、タダでも良いからどうにか手放したいと相談されたが、どうにもできない家も多いとの事。これが実態であり、こういう空家がどんどん放置されていくだろう。この計画を進めればまちはコンパクトになっていくだろうが、そういう問題も検討していかなければならないだろう。

話が少しそれるが、先日白鳥台の懇談会に参加させてもらい、スーパーの「ハック」の話になった。閉店した時は店舗が埋まらず厳しい状況で、白老から進出してくれてどうにかやっているのだが、実際は閑散としている。なくなると困ると言いながら、出来たら行かないというのが現実。JRの話も同じで、なくなったら困ると良いながら、使う人がいなくなったら、成り立たない。市民意識を変えることも大事だろう。

●大橋委員

都市機能誘導区域が示されて、その後居住誘導区域が示されて、それらがネットワークでつながれて大枠が理解できるのかなというのが率直な意見。

今後になるのだろうが、都市機能誘導区域についてはどういうことが出来て、どういうものが位置づけられるのかを示しながら、市民説明等していくと理解してもらえらるだろう。

●市村会長

都市構造を見据えて役割分担をしたとき、中島地区と中央地区では違って、それらをつなぐネットワークの考え方が大事で、各拠点における背景や、人口などの地域性を捉えて今後検討を進めなければならないと考えている。

●真境名委員

周りの市町村の事も大事だろう。中島地区とかの居住環境が悪くなると、登別の若草に行ってしまう。若草は野球場があって、若い人が集まるコンテンツも多い。

また、バスとかもどのくらい期待していいのか気になっている。市でもコミュニティーバスを出しているが、成果があるかは疑問。室蘭工大から行くと、JRまでバスが繋がらないし、駅まで4キロなのに30分以上もかかる。こういう不便な点について、場所だとか接続だとかの見直しをバスにどれだけ期待していいのか。

移住とか定住とか言っているが、もっと利便性を高めていかないと、せっかく来た人を逃がしてしまう。

●山中委員

公共施設がどんどん減っていくなかで、活動する場所が減っている。生涯学習、生涯スポーツを進める中で、こういった事も検討されているのか。

●事務局

学校統廃合等で、活動場所が減っていることは話を聞いている。この計画の「まちづくりの方針」の中で、公共施設の集約と再編をうたっているので、今後の市民説明の中でご理解いただき、検討も進めていきたい。

●森川委員

地域住民や団体の活動の場が無くなってきていることは、町内会も同じ意見だが、武揚の杜のなかにコミュニティーセンターを業者が作ってくれた。これを我々が大いに活用して、地域の交流を深めていきたい。こういう施策についても、市で積極的に推進してもらおうと、まちが変わっていくと思う。

●事務局

具体的にこの計画をつくとどういふことがおこるかという、都市機能誘導区域や、居住誘導区域の中で、さまざまな施策を検討できる。そうした中で、子育てにやさしいまちや、サ高住などもどうすれば建てられる等考えていきたい。

●大橋委員

この計画の中で、災害については考慮しているのか。津波の被害も多いと思うが。

●事務局

災害のリスクについては、資料P20にあるように、中島地区と、中央地区は津波の浸水区域の中に入っている。まちの形状から、津波をすべて回避することは難しいが、室蘭市は津波が到達するまで、30分～40分時間があるので、ソフト対策等も含めて、人命が失われない事を前提に、防災部局と連携しながら計画を進めていきたい。

以上